

リハビリテーション科 この1年

PT 坂本 雅則 ・ OT 内田 喜大・窪田 博文

【理学療法部門（坂本）】

当部門は、PT5名、パート職員4名で診療しており、現在、診療の質確保のためOT、STの配置を進めているところです。OTに関しては、診療報酬上PT・OTの区別がなくなったため整形疾患、脳血管疾患に対してPTスタッフと共同の診療を考えています。またOTには12年間継続している名寄地区機能訓練事業にも、協力してもらいたく考えています。

STに関しては、摂食嚥下障害、失語症、高次脳機能障害に対して、主に脳血管疾患の診療をしてもらうこととなります。将来は在宅者への嚥下治療として、訪問リハビリの派遣も構想しています。

OTについては応募もあり、採用できそうですが、STについては養成校が少ないためか応募がなく、現在も募集中です。名寄という地域、1人職場、急性期リハビリ、初任給が民間に比べ低いというの大きな要因と考えています。

平成13年度に各科で長期計画（7ヵ年）を策定したと思いますが、その達成度について考察します。まず当部門では、当時下記の4点を計画しました。

- ①介護保険「訪問リハビリ」の拡充
 - ②OT、STのコ・メディカルスタッフ配置
 - ③維持期（慢性期）リハビリ病棟の設置
 - ④地域リハビリ広域支援センターの機能
- ①については週1回から5回に拡充しました。②については次年度OTの採用が決まりそうです。③については現在の病院機能からすれば撤回します。④については上川北部地域リハビリ広域支援センターの事務局病院となり運営しているところです。

平成13年からの長期計画については、ほぼ計画通りに推移していると考えています。今後、新たな長期計画の策定が必要であると考えているところです。

【院内OT部門（内田）】

OT部門のスタッフは昨年同様、作業療法士1名、助手1名で業務を行っています。

行事はふれあい広場、ジンギスカンパーティー、作品販売、クリスマス会（予定）を行いました。今年初めて行った、病院玄関前での作品販売では1時間弱の短時間ながら、ふれあい広場よりも多く作品が売れました。購入や見学してくれた方、販売を許可してくれた方に感謝申し上げます。参加メンバーから「今回マフラー売れたからまた作ろう」、「僕販売で役に立ったね」等の意見があり、意欲や自信の向上に繋がりました。

平成20年1～11月までの実施人数は3926人で平成19年の3435人（1～3月は4人体制で外来も含んでいました）より約14.3%増になりました。

実習生は見学実習1名、臨床実習3名を受け入れました。

【精神科デイケア（DC）部門（窪田）】

DCのスタッフは、医師1名（兼務）、OT1名、看護師1名、専従スタッフ1名です。

今年の4月からは、原田精神保健福祉士にDC事業に加わって頂いています。DCは、外来の精神障がい者の方を対象に、社会生活機能の回復を目的として、ひとり一人の患者さん（DCではメンバーと呼びます）に応じたプログラムに従って、グループや個人ごとに治療するものです。具体的には、対人関係の改善、生活リズムの改善、集団への適応、就労準備や自立的生活の支援などを行っています。これらの支援を継続していく事により、結果として症状の軽減を図り、入院の防止につなげていきます。また、DCでは、治療の場と地域生活をつないでいく、橋渡しの役割を担っていき、上川北部の精神医療における社会資源、メンバーの活動拠点の一つとして、総合的に地域生活を支援していく事で、地域精神医療に貢献したいと考えています。